

加工・業務用野菜取組事例 ⑧

調査日(更新日)	平成26年11月18日(平成一年一月一日)
----------	-----------------------

1. 事業者基本情報	
事業者名	三笠産業(株)
代表者名	代表取締役社長 佐伯誠
所在地	山口県山口市小郡山手上町1-10
連絡先	TEL:083-973-0736 FAX:083-973-0746 E-mail:t.iga@mikasasangyou.co.jp
ホームページ	http://www.mikasasangyou.co.jp/
連絡先担当者	愛菜事業部 部長 中野明彦 主任 伊賀達郎

2. 経営の概要	
経営形態	株式会社
事業概要・取扱商品	乾燥野菜、粉末野菜
販売額	約2億円
労働力・構成員	従業員35名(パート含む) ※加工部門従業員数
生産・加工施設	4工場(宇部工場、出雲工場、関東工場、山口工場) 野菜ファインパウダーの生産は山口工場
経営の推移と取組のきっかけ	<p>三笠産業(株)は、創業以来、安全で健康的な農作物の生産環境の維持や自然環境の保全に貢献したいと考えてきた。約30年前から微粉碎技術に着目し、時代の先端を行く精密度、高度技術とそのノウハウを修得してきた。</p> <p>若年層を中心に、野菜や果物の平均摂取量が減少していく中で、その技術を食品に取り入れ、簡単に摂れる食品の研究を行ってきた。平成15年に「野菜ファインパウダー」の開発に成功し、その後も、大学の研究機関との共同研究で加工技術の向上や、機能性の評価を行い、安心・安全な食品として完成度を高めてきた。</p> <p>現在も、新創造事業にも取り組み、お客さまのさまざまなニーズに対応した研究開発に取り組んでいる。</p>

3. 加工・業務用野菜の取組概要

原料入荷関係 (時期・産地・量)	ほうれんそう(1月～3月:宮崎県)、かぼちゃ(9月、10月:北海道)、むらさきいも(11月:鹿児島県)、にんじん(6月～7月:長崎県)、明日葉(5月、11月:山口県)、ごぼう(6月～7月:鹿児島県)、れんこん(12月:山口県)、ブロッコリー(5月:岡山県)、こまつな(3月、4月宮崎県)、とうもろこし(鹿児島県)、しょうが(鹿児島県)、ゆず(鹿児島県)、レモン(広島県、愛媛県)、発芽玄米(秋田県)。原料にハウスものは使用しないので、旬の時期に買い付けを行っている。
主な出荷先	乾燥野菜やパウダーの9割を原料として業者に出荷。1割は、直接販売を行っている。
販売額	—
出荷先からのニーズ	乾燥野菜やパウダーとして出荷しているが、品質のバラツキをなくすため、多数の産地からではなく、まとまった量の確保を希望する。毎年、原料産地が変動することがないように希望する。
その他特徴的な事項等	取り扱っている野菜は、すべて国産で、生産履歴が明らかな野菜を使用している。契約栽培を中心に露地栽培の新鮮野菜を調達し、専用工場で加工を行っている。
取組の成果	加工用契約栽培は、青果用販売に比べ、生産者販売単価は低くなるが、コンテナ出荷を行うことにより、出荷に伴う作業時間の軽減や資材費の削減につながっている。また、品目によっては、規格外品の利用も可能となった。
今後の展開	果物のパウダーについて、業者からのニーズが高い。ただし、ぶどうについては、種の処理が大きな課題となっている。 キャベツ、たまねぎについても、問い合わせはあるが、微粉粉末にすると固まってしまうため、新技術開発に取り組んでいる。 現在導入中の機械規模では、まとまった量の確保が必要なため、小型機械の導入も検討している。小型機械の導入後は、地元からの調達も可能となる予定である。
生産者や産地に対する要望等	加工用として、葉物であっても、大きな規格の物が欲しい。 産地で、2～3軒と集まった体制でもいいので、ある一定のまとまった量の確保をお願いしたい。 加工・業務用野菜の契約栽培であることについて理解していただきたい。
事業者からひと言	基本的には、近隣の生産者との契約を増やし、地場農産物で製品を作っていきたい。一定量が確保できる産地からは是非、声をかけていただきたい。

